

泌尿器科紀要

**Acta
Urologica
Japonica**

Vol. 50, No. 6 June 2004

**ACTA
UROLOGICA
JAPONICA**

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Editor Emeritus : Osamu YOSHIDA

Editor : Osamu OGAWA

Deputy Editor : Shingo YAMAMOTO

Advisory Committee

Susumu KAGAWA
Takashi KURITA
Shin-ichi OHSHIMA

Sadao KAMIDONO
Masaru MURAI
Taiji TSUKAMOTO

Tadaichi KITAMURA
Seiji NAITO
Hidetoshi YAMANAKA

Associate Editors

Hideyuki AKAZA
Katsusuke NAITO
Tsuguru USUI

Shiro BABA
Akihiko OKUYAMA

Haruo ITO
Hiroki SHIMA

Editorial Board

Yoichi ARAI
Takashi DEGUCHI
Masato FUJISAWA
Momokazu GOTOH
Eiji HIGASHIHARA
Kiyotaka HOSHINAGA
Mikio IGAWA
Yoshiyuki KAKEHI
Hiroshi KANAMARU
Mutsushi KAWAKITA
Kenjiro KOHRI
Atsuo KONDO
Masaaki KUWAHARA
Tetsuro MATSUMOTO
Tsuneharu MIKI
Masayuki NAKAGAWA
Yasunori NISHIO
Yoshihide OGAWA
Yusaku OKADA
Seiichiro OZONO
Taizo SHIRAISHI
Yoshifumi SUGITA
Mineo TAKEI
Ken-ichi TOBISU
Shoichi UEDA
Hirohiko YAMABE
Masayoshi YOKOYAMA

Yoshiaki BANYA
Shin EGAWA
Junnosuke FUKUI
Tomonori HABUCHI
Yoshihiko HIRAO
Tomohiko ICHIKAWA
Kyoichi IMAI
Hidehiro KAKIZAKI
Hiroshi KANETAKE
Nobuo KAWAMURA
Takuo KOIDE
Yoshinobu KUBOTA
Zenjiro MASAKI
Masahiro MATSUSHIMA
Ikuo MIYAGAWA
Tatsuya NAKATANI
Osamu NISHIZAWA
Hiroshi OHE
Tetsuro ONISHI
Kenji SHIMADA
Taro SHUIN
Koji SUZUKI
Hideo TAKEUCHI
Hiroshi TOMA
Michiyuki USAMI
Satoshi YAMAGUCHI
Osamu YOKOYAMA

Eitetsu BOKU
Tomoaki FUJIOKA
Hideki FUSE
Masamichi HAYAKAWA
Shigeo HORIE
Tatsuo IGARASHI
Nobuhisa ISHII
Toshiyuki KAMOTO
Yoji KATSUOKA
Taketoshi KISHIMOTO
Munekado KOJIMA
Hiromi KUMON
Tadashi MATSUDA
Hideyasu MATSUYAMA
Yoshinori MORI
Mikio NAMIKI
Katsuya NONOMURA
Kenji OISHI
Yoshinari ONO
Toshiaki SHINKA
Yoshiki SUGIMURA
Masayuki TAKEDA
Toshiro TERACHI
Yoshihiko TOMITA
Kenji WAKAI
Kosaku YASUDA
Tatsuhiko YOSHIKI

Managing Editor : Takehiko SEGAWA, Takeshi TAKAHASHI

Scientific Advisor : Mieko MIYAKAWA

Language Editor : Sumiko KAIHARA

Secretary : Kuniko OKUI

(2004.4.)

購読要項 (2004年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 一般会員は年間予約購読料10,000円(送料とも)を前納する。賛助会員は20,000円(送料とも)とする。払込みは郵便振替に限る。口座番号 01050-9-4772 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ泌尿器科紀要刊行会宛、はがきか FAX にて申し込めば所定の用紙を送付する。

投稿規定 (2004年1月改訂)

1. 投稿: 連名者を含めて会員に限る。
 2. 原稿: 泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。原著、症例報告などは他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、その外の普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)までとする。
 - (3) 和文原稿はワープロを使用し、B5またはA4判用紙に20×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めにくる場合は大文字)、明瞭に記載する。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順で和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。
例: 山田, ほか: 前立腺癌・PSA
 - (ロ) 和文の表紙、本文とは別に、英文標題、英文抄録をつける。標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文(250語以内)の順にB5またはA4判用紙にダブルスペースでタイプする。別に抄録本文の和訳を添付する。ワープロ原稿可。
 - (ハ) 原稿は、和文標題、英文標題、英文抄録、その和訳、緒言、対象と方法、結果、考察、結語、文献、図表の説明、図、表の順に配置し、原稿下段中央部に和文標題ページを1とするページ番号を付ける。
 - (4) 英文原稿はA4判用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文抄録を英文原稿の後に添付する。和文原稿と同様にページ番号を付ける。
 - (5) 図、表は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文とする。原稿右欄外に挿入されるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
 - (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所に引用文献番号を入れる。文献番号は本文の文脈順に付すこと(アルファベット順不可)。その数は30までとする。
例: 山田^{1,3,7)}, 田中ら^{8,11-13)}によると…
雑誌の場合 — 著者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする): 標題. 雑誌名 巻: 最初頁-最終頁, 発行年
例 1) Kälble T, Tricker AR, Friedl P, et al.: Ureterosigmoidostomy: long-term results, risk of carcinoma and etiological factors for carcinogenesis. J Urol 144: 1110-1114, 1990
例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, ほか: 経皮的腎碎石術(PNL)および経尿道的尿管碎石術(TUL)にみられる発熱について. 泌尿紀要 33: 1357-1363, 1987
単行本の場合 — 著者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする): 標題, 書名. 編集者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする). 版数, 巻数, 引用頁, 発行所, 出版地, 発行年
例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: Urolithiasis Research. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH, et al. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976
例 4) 大保亮一: 腫瘍病理学. ベッドサイド泌尿器科学, 診断・治療編. 吉田 修編. 第1版, pp. 259-301, 南江堂, 東京, 1986
 - (7) 投稿にあたっては、本誌を十分参考にして体裁を守ること。
 - (8) 原稿は、オリジナル1部とコピー2部(図、写真は3部ともオリジナル)を書留で送付する。万一にそなえて、コピーを手元に控えておくこと。
(原稿送付先) 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 泌尿器科紀要刊行会宛
3. 論文の採否: 論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editorの責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MOディスク・CD-R・CD-RWのいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windowsの場合はMS-Word・一太郎、またMacintoshの場合はEG-Word・MS-Wordとし、特にMacintoshにおいてはMS-DOSテキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

前号に引き続き国立大学の法人化に関する話題である。各大学は文部科学省に中期目標を提出して、その達成度によって評価を受け、さらにその評価を基準にして補助金の増減が決定されると聞いている。京都大学は伝統的に学生の教育・指導に関しては放任主義であるが、これが外部評価にさらされると「不十分」「無責任」ということになる。しかし、このような中からノーベル賞受賞者が生まれてくるのは何故だろうか。

先日、ある京大名誉教授のおもしろい講演を聞いた。「アホ」と「カシコ」の相互依存という話である。話によると、ノーベル賞を取るような研究は長く日の当たらない仕事から生まれることが多く、研究者はまわりから「アホ」と思われていることが少なくないという。要するにノーベル賞受賞者は最初から「カシコ」ではなく「アホ」のなれの果てかもしれないというのである。また、彼の理論によると、管理教育で「アホ」を減らせば、全体の分散は減らせるが、それによって「カシコ」も減ってしまうという相互依存の関係にあるという。

京都は学生の街である。市街を歩けば、真夜中でも大騒ぎをしている「アホ」の集団に出会う。しかし、私はこのパワーが好きである。「アホ」と「カシコ」が共存し、また「アホ」のなれの果ての「究極のカシコ」が生まれる伝統は京都の街に残ってほしい。

(小川 修)